

平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立稲原小学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成27年4月21日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 小学校第6学年 7名

教科に関する調査 国語、算数、理科

- 主として知識に関する問題(A)
- 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 児童質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等
- 学校質問紙調査 ----- 指導方法に関する取組や人的・物的な
教育条件の整備の状況等

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- 漢字を正しく読んだりすることはできている。漢字を正しく書いたり、語句の意味を理解し、正しく使ったりすることに課題が見られる。
- 目的や意図に応じて、与えられた様々な情報を関係付けながら自分の考えを書くことに課題がある。

(1) 国語A (知識)

- ◇漢字(友人を家に招く)を読むのは、すべての児童ができている。[A¹]- (1) 100%]
- ◇漢字(全員がすぐに承知した)を読むのは、すべての児童ができている。
[A¹]- (3) 100%]
- ◇文を構成する主語と述語との照応関係は、ほとんどの児童が捉えている。
[A²]= 85.7%]
- ◆漢字(シャワーをあびる)を書くことに課題がある。[A¹]= (1) 42.9%]
- ◆新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることに課題がある。[A⁵]= 28.6%]

(2) 国語B (活用)

- ◇目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることは、すべての児童ができている。[B²]= 100%]
- ◇登場人物の気持ちの変化を想像しながら、声を出して読むときの工夫とその理由を書くことはすべての児童ができている。[B³]= 100%]
- ◆目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。
[B¹]= 42.9%]
- ◆文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くことに課題がある [B²]= 42.9%]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	57.1	—
書くこと	85.7	71.4
読むこと	57.1	78.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.2	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

算 数

- 分数や小数などの四則計算はできている。
- 単位量あたりの考え方や基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えて、活用することに課題が見られる。
- 求め方や理由を筋道立てて記述することに課題がある。

(1) 算数A (知識)

- ◇単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことはすべての児童が理解している。 [A1] (2) 100%
- ◇180°より大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角をもとに捉えることはすべての児童ができている。 [A4] (1) 100%
- ◆示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を捉えることに課題がある。 [A5] (1) 42.9%

(2) 算数B (活用)

- ◇平行四辺形を構成することができる、4つの辺の組み合わせを選ぶことはすべての児童ができている。 [B1] (1) 100%
- ◇切り上げた場合の見積もりの結果をもとに、目標に達しているかについて判断することは、ほとんどの児童ができている。 [B4] (2) 85.7%
- ◆20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書くことに課題がある。 [B2] (2) 14.3%
- ◆分割された2つの図形の面積が等しくなるわけを記述することに課題がある。 [B5] (1) 14.3%

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	算数 (A)	算数 (B)
数と計算	93.9	46.4
量と測定	76.2	38.1
図形	75.0	57.1
数量関係	92.9	33.3

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

理 科

- 知識・活用に関する設問や記述式で解答する設問は比較的よくできている。
- 実験器具の名称や操作方法の理解などに課題が見られる。
- グラフや観察記録などをもとに、それらを関係付けながら考察したり分析したりすることに課題が見られる。

(1) 理科A (知識)

- ◇星座の動きを捉えるための適切な記録方法はほとんどの児童が身に付けている。
[4](3)85.7%
- ◇水が水蒸気になる現象について、その名称や概念をすべての児童が理解している。
[4](5)100%
- ◆メスシリンダーの名称の理解に課題がある。[3](4)42.9%

(2) 理科B (活用)

- ◇振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書くことはすべての児童ができています。[1](3)100%
- ◇地面に水をまいた時の地面の様子と温度の変化について、実験結果から言えることを選ぶことはすべての児童ができています。[4](6)100%
- ◆方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を分析して考察することに課題がある。[4](1)42.9%

平均正答率 (%)

学習指導要領の区分・内容		理 科
A区分	物 質	77.6
	エネルギー	95.2
B区分	生 命	81.0
	地 球	75.5

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国や県より下回っている。理科は、全国や県を上回っている。

	国語	算数	理科
学校	42.9	42.9	85.7
県	59.2	66.9	82.6
全国	61.1	66.6	83.5

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数・理科ともに全国や県を上回っている。

	国語	算数	理科
学校	100	100	100
県	82.8	82.7	88.1
全国	82.0	81.0	87.9

(3) 授業時間以外に全く勉強しない児童の割合は、平日、休日ともに0で、県や全国を下回っている。

しかし、平日に1時間以上勉強をしている割合は、学校28.6、県61.6、国62.7であることから、学習時間は、県や全国に比べて少なくなっている。

	平日	休日
学校	0	0
県	3.6	15.0
全国	3.6	10.2

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国・県より上回っている。

学校	71.5
県	55.9
全国	61.2

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「話している」と回答した児童の割合は全国・県を上回っている。

学校	57.1
県	54.0
全国	53.2

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を上回っており、地域へ関わっていかうとする意識が高い。

学校	100
県	63.1
全国	66.9

(7) 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますかに、「当てはまる」と答えた児童の割合は、全国・県を上回っている。

学校	42.9
県	22.7
全国	22.7

(8) 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますかに、「当てはまる」と答えた児童の割合は、全国・県を上回っている。

学校	57.1
県	35.9
全国	39.4

(9) 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますかに、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童の割合は、全国・県を上回っている。

学校	85.7
県	63.9
全国	66.9

(10) 授業の中で、わからないところがあったら、「その場で先生に尋ねる」と答えた児童の割合は全国・県を上回っている。

学校	57.1
県	20.1
全国	16.1

4 調査結果を踏まえた改善方策

(1) 学校の教育活動として

- ① 指導方法の工夫改善を生かしたわかる・できる・楽しい授業づくりの推進
 - きめ細かな指導の工夫　ＴＴ指導（算数、国語を中心に）など
 - 学び合う授業づくり　グループ学習などによる学び合う学習活動の充実
 - ・書く活動や話し合う活動を通して、考えを高め合い考える力を伸ばす。
 - 基礎、基本的な学習内容の確実な定着と習熟　補充学習による学力補充
- ② 学力向上に向けた学習環境づくり
 - 読書指導の充実　朝読書（水木金15分）ボランティアによる読み聞かせなど
 - スキルタイムの工夫（月～金 13:40～13:50）　読み書き計算、視写など
 - 自分の考えや意見を発表する習慣づくり　終わりの会などでのスピーチなど
 - 考えなどをわかりやすく書く力を高める指導の工夫（ノート指導の充実）
- ③ 家庭・地域との連携
 - 家庭での読書活動の推進　ボランティアによる読み聞かせなど
 - 家庭と連携した家庭学習の充実　「家庭学習のすすめ」の活用　自主学習の工夫

(2) 算数・国語・理科を通して（誤答分析などから）

① 算数科では

- ◇ 比較量や基準量の関係や単位量あたりの大きさ、百分率、割合の意味などの理解を確実にして、それらに関連づけて活用できるようにする。
- ◇ 円や三角形などの図形の性質を関連させて、活用できるようにする。
- ◇ 筋道を立てて考え、考えや理由などを数学的に表現できるようにする。
 - ・理由などを順序よくわかりやすく書いたり、説明したりする活動の充実
- ◇ 考えや理由などを説明し合ったり、話し合ったりする活動を工夫し、学び合うことを通して考える力を伸ばしていく。
 - ・ペア、グループ、全体での目的を持たせた話し合う活動の工夫
 - ・多様な考えを比較・検討して、よりよい考えなどをつくり出す活動の工夫

② 国語科では

- ◇ 漢字の読み書きなど、基礎・基本的な学習内容の習熟定着を図る。
- ◇ 文や文章の構成などについて、学年に応じた継続的な指導を充実させる。
- ◇ 様々な資料から得られた情報を関係付けて、目的や意図に応じて考えや意見など書く指導の充実
- ◇ 目的意識、相手意識を明確にした様々な言語活動の充実
(記録、説明、報告、紹介、批評など)
- ◇ 条件に合わせて、自分の考えをまとめて書く学習活動の工夫
(字数(何字以上、以下)、使う言葉、書く内容など)
- ◇ 考えなどを書く活動を充実させ、グループ学習、ペア学習などを工夫して、考えや意見を高め合える学習活動を進める。
- ◇ 言語活動のもとになる読書活動の充実 語彙力の向上、言葉の力の育成
(読書の時間、読み聞かせ活動、家庭での読書活動など)

③ 理科では

- ◇ 学習で使用する用語やその意味などの理解や観察・実験の基本的な技能の習得を図る指導を充実させる。

授業では、次のような視点で授業改善を進めていく。

- ◇ 観察、実験などの結果を整理し、考察する指導
 - ・ 観察した記録などをグラフや表に整理させたり、それから読み取れることをまとめたり分析させたりする。
 - ・ 観察、実験の結果をもとに、分析したり考えたりする学習場面を工夫する。
- ◇ 科学的な言葉や概念を使って考えたり、説明したりする指導
 - ・ 判断した根拠や理由をわかりやすく説明できるようにする。
- ◇ 観察、実験の方法や結果を、予想や見通しに照らして見直す指導
 - ・ 実験の結果が予想と一致しない場合などに、その原因を考察させたり、実験の方法を再検討させたりする。

※一部を取り出しての2次利用、また再配布を禁ず。 印南町教育委員会